

会議結果概要

会議の名称	令和7年度 第2回 古河市障害者自立支援協議会
開催日時	令和7年11月20日(木)午後2時00分～午後4時10分
開催場所	古河市総和福祉センター「健康の駅」2階 視聴覚室1・2
出席者	(委員) 【出席】 阿久津会長、今井副会長、大高委員、和田委員、落合委員、関委員、稻葉委員、生沼委員、堀江委員、赤荻委員、金城委員、千野委員 計12名 【欠席】 大関委員、楠委員、秋山委員、大村委員、大竹委員、塩畑委員、岡安委員 計7名 (事務局) 池澤部長、小野里課長、忍田課長補佐、高橋課長補佐、吉原課長補佐、市川係長、青木係長 基幹相談支援センター 石田係長、奥園、斎藤 計 10 名
議題	次第1 開会 次第2 会長あいさつ（阿久津会長） 次第3 議事 議事(1) 日中サービス支援型指定共同生活援助事業評価について 議事(2) 専門部会活動報告 ・障がい児支援専門部会 ・障がい者相談・就労支援専門部会 ・障がい者にやさしいまちづくり専門部会 議事(3) 個別課題から見える地域課題について 議事(4) その他 ① Koga インクルーシブフェスティバル2025について ② 第1回古河市障害福祉サービス事業所対抗スポーツ交流大会について ③ 障がい者の雇用に関するアンケート調査について ④ 令和7年度第3回障害者自立支援協議会スケジュールについて 次第4 閉会
審議の内容	議事(1) 日中サービス支援型指定共同生活援助事業評価について (説明:株)イノベル ・対象事業所 ①イノベル古河旭町 ②イノベル古河西牛谷 ・事業報告書、評価シートの説明 (委員からの主な要望や質問、意見) Q1) 地域住民との交流については、昨年の評価の時に委員から「交流の機会を設けてください。」と言われていること。また、基本方針にも書かれている。地域住

民との交流について、現状と今後の見通しについて聞きたく。

A1) 交流については、社協に出向いてボランティアがないか確認をしたが、高齢者のボランティア交流はあるものの、障害者との交流はないと言わってしまった。また、自治会との交流についても自治会の情報がないということから交流に至っていない。このことについては、会社に相談している。

Q2) 2点質問する。1点目は、イノベル西牛谷の世話人が4名で常勤換算後が5.04名、それと夜間での生活支援員が2名で常勤換算後が2.04名となっていますが、その算出根拠を教えていただきたい。2点目は、夜間の緊急搬送の対応策について教えていただきたい。

A2) 1点目については、計算が間違っていましたので訂正する。

2点目の緊急時につきましては、まず管理者に連絡が入り、管理者から夜勤勤務の者に指示が行く。

Q3) 緊急案件について、受け入れを断る場合があるか教えていただきたい。

この他、緊急時の受け入れ時に難しいと感じることがあれば教えていただきたい。

A3) 緊急時の受け入れを断ることはない。ただし、緊急受け入れをしている間に、また一人受け入れの依頼があった場合は断っている。

難しいと感じていることについては、サービス管理責任者とのやりとりがスムーズにいかないことがある。具体的には、受け入れ期間等の要望があつたりするが、その通り答えられないこともある。

Q4) 支援の質の確保に努めているかについて、研修はどのように行われているか教えてほしい。

A4) 会社の本部から研修のやり方について年間スケジュールとして指示が来る。そのスケジュールに合わせて本部から資料が送られてくる。資料に従って、私が講師として実施している。

Q5) 虐待等の権利侵害の防止、発生時の対応について伺う。こちらは、基本的に事業所ごとに委員会に基づいて研修を実施しているのか、それとも本部の方の大きな委員会があって、それに基づいて研修を実施しているのか教えていただきたい。

A5) 会社から発信されたものに沿って委員会を実施している。施設でも委員会を設置しているので、こちらも実施している。

Q6) 外部のサービスを利用していない方が数名いると思いつか、そのような方はグループホームの中で支援をしていく中でどのような課題があるか。

A6) 日中、外に出ていない方というのは、重度の方や要介護の方がほとんどだが、そのような方は、リハビリを目的として、訪問リハビリや訪問マッサージを入れて対応している。

Q7) バイタル測定について、どのようなチェックを行っているのか。それと、食事

摂取量の確認とありますが、排せつの状況についてどのように把握しているか教えていただきたい。

A7) バイタル測定については、朝、夕の2回行っている。排せつの量等についても確認しており、訪問看護の職員と連携を踏りながら対応している。チェックの内容は、血圧、体温測定、SPO2、排せつである。

議事(2) 専門部会報告

① 障がい児支援専門部会

(説明:事務局)

保護者同志のコミュニティ・医療的ケア児の幼保の受け入れ体制について話し合いを行った。保護者同志のコミュニティについては、どのような手段があるかについて話し合いを行い、オフライン、オンラインが上げられ、オンラインの中ではズームやラインのオープンチャットという案が出た。

② 障がい者相談・就労支援専門部会

(説明:生沼委員)

企業の就労系サービス事業所の見学会について、協議を進めてきた。協議を進める中で、開催に向けての課題や企業側の障害者雇用に対する考え方や温度差があるという意見があったため、企業への後押しの手段として企業側のニーズの把握としてアンケート調査を進めていく方針となった。

③ 障がい者にやさしいまちづくり専門部会

(説明:関委員)

「当専門部会で協議するテーマの決定について」と「今後の専門部会の進め方」について協議を行った。取組内容としては、第4期古河市障害者基本計画に基づいて当専門部会で協議するテーマとその理由について、各委員から宿題を提出いただいた。その中から「障がいに対する理解を深めつつ、障がい者が交流できる場所を創設して行くためには何が必要か」というテーマに決定した。今後は、宿題や課題を設けながら進めて行きたいと考えている。

議事(3)個別課題から見える地域課題について

(説明:関委員)

50歳代の精神障害のある方で、特に利用しているサービスがなく、地域に委託相談という形で既に10年程関わっている。支援が困難な点として、特に本人からの具体的な希望がなく、サービスにつながらないという状態にある。課題としては、関わり当初は本人の困り感や悩み事、心配事の相談が主であったが、最近は両親の高齢化に伴い両親の困り感などが増加している。この課題の対応策としては、本人から、困ったことや悩みごと、また心配ごとなどがあった時に連絡が来て、その都度話を聞いたり、調べ事をして伝えたりしている。地域課題として、地域生活支援拠点等の現状については、障害分野では、乳児訪問のように、世帯の状況を把握する為の全戸訪問等の対応ができていないこと。地域生活支援拠

	<p>点等の必要な機能の充足については、障がいのある方への世帯把握等、民生委員による訪問やかかわり、地域資源や情報を取得するツール、地域との繋がりが希薄なため、地域以外での相談窓口もあるとよいと思う。</p> <p>(委員からの主な要望や質問、意見)</p> <p>このケースについては、高齢者と障がい者、また80・50問題がひとつの世帯の中にあるとすれば、重層的支援体制整備事業があるので、福祉推進課からアウトリーチとして、この世帯への訪問を行い、困り事等への支援の調整を行うこともできる。例えば、本人からの要望があれば参加支援事業を事業所に請け負っていただき、そこでサポートすることもできる。状況によっては訪問することもできる。このケースについては、障害というサービスの枠を越えて、その他のサービス、或いは、地域の取り組み等に絡みながら支援の幅を広げてもらうことが必要であるという印象を抱いた。</p> <p>議事(4)その他</p> <p>①Koga インクルーシブフェスティバル2025について (説明:事務局)</p> <p>令和7年11月30日(日)に開催しますので、是非、周りの皆様に周知をしていただくと同時に、お誘いあわせの上、ご来場願います。</p> <p>②第1階古河市障害福祉事業所スポーツ交流大会について (説明:事務局)</p> <p>令和7年10月18日に古河市の障害福祉事業所のスポーツ交流大会をはなもも体育館で実施しました。約100名程の参加があり、ボッチャと卓球バレーを行った。</p> <p>(委員からの主な要望や質問、意見)</p> <p>障がいのある人がスポーツに参加して競うという機会が少ない状況である。聴覚の方ですと、デフリンピックがありますが、なかなか浸透していません。ですから、このような地道な活動が必要である。是非、永続的に続けていただきたいと思う。</p> <p>③今後のスケジュールについて (説明:事務局)</p> <p>第3回目の協議会については、令和8年2月5日(木)14:00からこちらの会場で開催する。</p>
問合せ先 (事務局)	古河市役所 福祉部 障がい福祉課 TEL 0280-92-4919
備考	